

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

論述形式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問4題 各問200字程度(総字数800字程度)

出題の特徴や昨年との変更点

時代では、例年古代・中世・近世・近代から1題ずつ出題されるが、本年度の近代は戦後までをふまえた出題がなされた。分野では、外交から2題、社会経済・文化からそれぞれ1題が出題された。設問形式は、歴史事象の内容・特徴や影響を問う問題が3題(I・II・III)、歴史事象の変遷を問う問題が1題(IV)という構成になった。

その他トピックス

- (I) は、2024年度河合塾テキスト基礎シリーズ『日本史 演習編』第2章基本問題7がズバリ的中。
- (III) は、2024年度河合塾テキスト基礎シリーズ『日本史 演習編』第6章基本問題17がズバリ的中。
- (II) は、2024年度河合塾テキスト基礎シリーズ『日本史 演習編』第4章基本問題10が類似のテーマを扱った。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
(I)	論述形式 (200字程度)	古代 社会経済	墾田永年私財法の中身と影響 墾田永年私財法の影響については、貴族・寺院などが大土地経営を進めた点だけではなく、設問文第2文の内容と付帯条件「律令体制との関わり」をふまえて律令国家の土地支配が強化された点を指摘したい。	標準
(II)	論述形式 (200字程度)	中世 文化	12世紀後半以降の仏教界の革新 設問文第1文の「仏教のあり方を問い合わせ動き」から鎌倉新仏教の開祖とされる3人の僧侶を想起し、念佛・題目・禪など1つの道による救済と武士や庶民にも門戸を開いたことを共通点として示したい。 なお、戒律を厳守した旧仏教の僧侶3人(貞慶・明惠・叡尊など)を取り上げてもよい。	標準
(III)	論述形式 (200字程度)	近世 外交	江戸時代の琉球王国をめぐる国際環境 琉球王国をめぐる国際環境について、中国への朝貢継続及び薩摩藩による支配という日中両属関係を指摘したうえで、江戸幕府への使節派遣などにふれつつ具体的に論じること。	標準
(IV)	論述形式 (200字程度)	近代・戦後 外交	近代・戦後における台湾の政治的状況の過程 台湾の政治的状況について、日清戦争後の台湾統治のあり方、アジア・太平洋戦争期の皇民化政策と徵兵制実施、日本敗戦後の台湾における中華民国政府の存続の3つの段階に区分して論じたい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

- ①大阪大学の論述対策の基本は、歴史事象が生起する要因・背景やその影響・意義など、論述の基本知識を丁寧におさえていく日常の学習にある。教科書を熟読し、単なる用語の暗記ではなく、理解に重点を置いた学習を心がけること。
- ②時代では、古代・中世・近世・近代の各時代から1題ずつ出題されるのが基本なので、それを念頭に学習を行うこと。なお、原始・戦後についても一定の準備は怠らないこと。分野では、政治を軸に社会経済・外交・文化など他分野との関連を踏まえた学習に配慮すること。
- ③論述答案の作成力は一朝一夕には上達しない。設問文に込められた出題者の意図の読み取り方や答案作成の手法を身につけることが肝要である。論述の学習方針を早期に立てて市販の問題集や過去の問題を解き、できる限り添削指導を受けて自身の答案作成能力を点検すること。
- ④大阪大学では、近年過去の出題テーマと類似した内容の出題がみられる。過去の問題で扱われたテーマについてはしっかり学習しておきたい。